

募集要項

- 対象 市内在住、在勤、在学の方
全講座を受講できる方
- 定員 40人（定員を超えた場合は抽選）
- 受講料 無料
- 申込期限 8月15日（金）＜必着＞
- 申込方法 右のQRコードから。
または、はがきかファックスに
①市民環境アカデミー参加
②参加者全員の氏名（ふりがな）
③住所
④電話番号
⑤年齢
をご記入のうえ、下記申込先まで送付してください。



お申し込みはこちらから

問合せ・申込先

春日井市環境部環境政策課

〒486-8686 春日井市鳥居松町5丁目44番地

TEL：0568-85-6216 FAX:0568-84-8731

台風による警報や熱中症警戒アラートの発令等により、講座を延期もしくは中止する場合があります。

令和7年度 春日井市

市民環境アカデミー



市民の皆様が家庭や地域での環境活動を率先して実践していくため、地球温暖化、生物多様性、再生可能エネルギーなど、各分野の第一線で活躍されている講師陣から幅広く環境について学ぶことができます。

各講座の内容・講師・日程などは中面、募集要項については裏面をご覧ください。

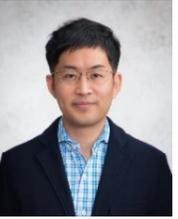
2050年二酸化炭素排出量実質ゼロの実現に向けた

地球温暖化対策の取組みを着実に進めていくため

令和3年6月22日に「ゼロカーボンシティかすがい」を

宣言しました。

令和7年度 春日井市 市民環境アカデミー

日時		会場	タイトル	概要	講師	プロフィール			
1	9月28日 (日)	14:00～ 14:15		開講式	オリエンテーション	市職員			
		14:15～ 15:45	文化フォーラム春日 井会議室A・B (春日井市鳥居松町 5-44)	温暖化で異常気象が日本狙い 撃ち！四季から二季へ、なぜ？ 〈異常気象・地球環境・地球沸騰 化〉	異常気象の解説者としてテレビでお馴染みの立花義裕が、むずかしいことをやさしく、ふかく、おもしろく、まじめに、ゆかいに解説します。テレビでは話せないことも語りつつ、気象・気候学の最先端の面白さへ誘います。毎年繰り返される激しい気象。世界中で日本が一番異常です。どうして日本が狙われるのでしょうか。このまま二酸化炭素を排出し続けて温暖化が進めば、日本の四季は長い夏と冬の「二季」となる可能性さえあるのです。	三重大学大学院 生物資源学研究科 地球環境学講座 気象・気候ダイナミクス研究室 教授 立花 義裕	わかりやすい解説には定評があり、「羽鳥モーニングショー」を始め、ニュース番組にも多数出演し、異常気象の解説や気候危機をマスメディアで精力的発信。第56回東海テレビ文化賞を2024年に受賞。 【専門分野】気象学、異常気象、気候力学 【委員】日本気象学会理事、日本雪氷学会理事 ほか 【著書】異常気象の未来予測（ポプラ新書:2025年7月発売）		
2	10月4日 (土)	9:30～ 12:00	少年自然の家、築水池 (春日井市廻間町 1102番地1)	フィールドワークで蝶の生態系を知ろう 〈生物多様性・フィールドワーク〉	春日井市自然環境保全活動推進員 尾崎 尚志	春日井市自然環境保全活動推進員 尾崎 尚志	【役職等】かすがい東部丘陵自然観察会会員、モニタリング1000里地調査（蝶）築水の森調査員、名古屋昆虫同好会会員、春日井郷土史研究会会員 【活動実績】春日井市の蝶についての研究と自然環境保護、アウトドアの自然観察会（蝶と花）を実施している。		
3	11月8日 (土)	10:00～ 11:30	市役所本庁舎1004・ 1005会議室 (春日井市鳥居松町 5-44)	都市における生物多様性保全の意義を捉え直す 〈生物多様性〉	人口の多くが都市に集中する時代、都市における生物多様性が市民にもたらす恩恵の重要性が増していくとみられます。本講座では、都市における生物多様性保全の意義を多角的に捉え直し、今後のより良いあり方について考えるための情報を提供します。	名古屋産業大学大学院 環境マネジメント研究科 准教授 長谷川 泰洋	名古屋産業大学大学院 環境マネジメント研究科 准教授 長谷川 泰洋	【専門分野】植物の保全生態学、生物多様性・生態系サービスの評価 【所属学会】日本造園学会、日本緑化工学会 ほか 【委員歴】なごや生物多様性保全活動協議会会長、名古屋市動植物実態調査検討会委員、一宮市環境審議会委員 ほか 【著書】『空間コードから共創する中川運河-「らしさ」のある都市づくり』（鹿島出版会・共著）、『鎮守の森の過去・現在・未来 そこが知りたい社叢学』（神社新報社・共著）	
4	12月6日 (土)	10:00～ 11:30	市役所本庁舎12階大 会議室 (春日井市鳥居松町 5-44)	心理学からみる環境問題 〈環境配慮行動〉	持続可能な社会を目指すうえで、環境配慮的な社会システムの構築と、その社会を構成する人々の具体的な行動変容が欠かせません。しかし、私たち人間はそもそも動物たちのことや自然環境そのものをどのように見ているのでしょうか。そして人間の心や行動の傾向は、限りある資源とどのような関係にあるのでしょうか。この講義では、資源管理をはじめとするさまざまな環境問題の解決にあたり、心理学の視点を活用することの重要性を学びます。	静岡県立大学 国際関係学部国際関係学科 准教授 坂本 剛	静岡県立大学 国際関係学部国際関係学科 准教授 坂本 剛	【専門分野】社会心理学、環境心理学、環境配慮型社会 【所属学会】日本社会心理学会、環境社会学会 ほか 【委員歴】東海心理学会 理事・編集委員会、日本グループ・ダイナミックス学会 理事・編集委員会 【著書】『ビッグ・ゴッド：変容する宗教と協力・対立の心理学』（誠信書房・翻訳）ほか	
5	1月18日 (日)	10:00～ 11:30	市役所本庁舎12階大 会議室 (春日井市鳥居松町 5-44)	フードスケープから読み解く持続可能なフードシステム 〈食農倫理学・フードスケープ・フードシステム〉	食べ物が作られて運ばれ、加工され売られ、私たちの食卓に上るまでのプロセスには、多くの人々・組織・仕組みが関わります。フードシステムと呼ばれるこの複雑な関係は、気候変動や資源枯渇、労働環境や食の公平性といった課題を含んでいますが、私たちは日々、それらを目にすることはあまりありません。食品の価格や鮮度、栄養価とは違う、食卓からは見えない「食の景色」（フードスケープ）を見ながら、これからのフードシステムのあり方を一緒に考えてみましょう。	南山大学 総合政策学部総合政策学科 准教授 太田 和彦	南山大学 総合政策学部総合政策学科 准教授 太田 和彦	【専門分野】食農倫理学、環境倫理学、シリアスゲーム 【所属学会】環境社会学会、日本社会学会 ほか 【委員歴】共生社会システム学会 理事 ほか 【著書】-フードテック-「食」を変える先端技術の課題と可能性（科学技術に関する調査プロジェクト）（国立国会図書館発行）ほか	
6	2月22日 (日)	10:00～ 11:30	市役所本庁舎12階大 会議室 (春日井市鳥居松町 5-44)	カーボンニュートラルなエネルギー需給に向けて 〈電力・エネルギー〉	2050年脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの導入等の施策が押し進められていますが、同時に、環境との調和、地域社会との共存を図る必要があります。本講座では、脱炭素社会の実現に向け、わが国における将来のエネルギー需給のあり方について考えます。	名古屋大学 未来材料・システム研究所 システム創成部門 教授 加藤 文佳	名古屋大学 未来材料・システム研究所 システム創成部門 教授 加藤 文佳	【専門分野】エネルギー学、電力工学 【所属学会】電気学会、エネルギー・資源学会 ほか 【委員歴】国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 NEDO技術委員、中津川市環境政策課「中津川市地域脱炭素ロードマップ策定・推進会議」委員 ほか 【著書等】『わが国における低炭素社会のためのエネルギー技術・システムの開発動向』（電気学会・共著）	
		11:30～ 12:00		閉講式	修了証交付	市職員			

※ 台風による警報や熱中症警戒アラートの発令等により、講座を延期もしくは中止する場合があります。